

## 岩手県における水産加工業復旧の課題

専任研究員 鴻巣 正

被災地の水産都市や漁村地域が復興していくうえで、水産加工業の復旧が重要な課題となっている。特に、岩手県には前浜や岩手県沖の水産資源を加工する事業所が多数あり、漁業の復旧にも大きな影響を有している。本稿では、岩手県における水産加工業復旧の課題について考えてみたい。

### 1 岩手県の水産加工業の特徴と復旧状況

#### (1) 岩手県の水産加工業の特徴

岩手県の水産加工は、冷凍水産物の生産量が約7割を占めており、産地魚市場に水揚げされた漁獲物の冷凍加工が中心である。魚種としては、サンマ、秋サケ、イカ、サバが多い。

例えば、秋サケは、岩手県の沿岸漁業の中核魚種であり、主に定置網で漁獲される。秋サケは、ほとんどが加工業者の手を経る。加工業者は産地魚市場で原料調達をおこない、トラック等で加工場に搬入する。雌はイクラの経済価値が高く、イクラ加工の主原料となる。本体は3枚におろし、フィレ加工し冷凍にする。中骨の箇所は、身はサケフレークの原料などにする(写真)。中骨は缶詰にもする。



サケのフィレと中骨の仕分け作業(筆者撮影)

雄は、ドレスといって頭を落とし、内臓を除き中国等にも輸出されてきた。

#### (2) 水産加工業の復旧状況

2008年漁業センサスによれば、岩手県の水産加工場は178工場、冷凍・冷蔵工場は176工場であった。今回の震災による水産加工業の被害は、11年8月農林水産省公表では、全壊が128工場、半壊は16工場、被害額は、在庫被害等を除き392億円と推計されている。

岩手県内の復旧状況は、岩手県水加協連が組合員に実施したアンケートによれば、129組合員の施設284のうち、稼働中は126施設、工事中が70施設という状況である。地区別では、久慈地区の復旧が進んでいる。宮古地区も既に稼働しているところが多い。被害は大きかったが、復旧の動きも早かった。山田地区、大槌地区はかなり厳しい状況になっている。特に、零細加工業者の復旧が厳しくなっている一方で規模の大きい事業者は、加工場を他地区にも移転させている。釜石地区、大船渡地区では、規模を小さくしてでも立ち直りを急いでいる。なかでも、大船渡のサンマを扱う加工場の復旧は早かった。

岩手県の水産加工業の復旧では、中小企業庁の中小企業組合等共同施設等災害復旧事業(グループ補助金)への関心が高かった。加工業の場合、早期に再開しないと顧客を失うという事情もあり、中小企業庁の事業の活用は一定の効果があった。

### 2 水産加工業が抱えている課題

#### (1) 販売先や労働力の確保

多くの水産加工事業者は、震災で製品供給

ができなくなり、販売先を失った。例えば、A社の聞き取りでは、震災前しめさばを関西に出荷していたが、大手量販店が他社から仕入れる動きにでたため、販路を回復するのに苦心したとのことである。販売先の確保は、事業者にとって大きな課題となっている。

また、震災後、従業員を一旦解雇せざるをえなかった事業者が多かった。B社では、パートを募集しても、ほとんど集まらないという。津波の被害が大きく、海の近くで働きたくないという人も多い。さらに、建設、土木関係の賃金のほうが高く、労働力の確保が厳しくなっている。

## (2) 事業者の経営再建と二重債務の重荷

原料在庫、製品在庫の被害も大きかった。在庫は補償の対象にならず、事業者の負担になった。また、負債の大きいところや後継者のいないところなど中小零細企業ほど再建が厳しくなっている。早期に復旧できなければ再建は困難と考える事業者が多い。

既往債務のある事業者は一層苦しい。平成24年度当初予算で水産関係資金無利子化事業が措置されたが、金融機関の融資姿勢にも厳しいものがある。これには、地元信用金庫など、震災による被害で金融機関自体の経営が厳しいという事情もある。このため金融面の対策の効果も浸透していない。

## 3 急がれる復旧・復興対策の強化

### (1) 水産加工業の抜本的再建

岩手県の水産加工場は、産地魚市場の周辺に立地している場合が多く、津波で壊滅的被害を受けた加工場が多い。多くの地域では地盤が沈下しており、復旧工事の着工には、地盤の嵩上げ等を前提にしなければならない。このため、中小企業対策としてのグループ補助金の継続が不可欠である。

さらに、津波被害で壊滅した山田地区や大

槌地区などでは、再生可能エネルギー等を利用した水産加工団地や水産業を核とした地域の抜本的再建を急ぐ必要がある。

### (2) 風評被害対策を含めた総合的対策

水産加工業では、風評被害が深刻さを増しており、大きな課題となりつつある。サケ、イカなどを中心に、地場である三陸産の原料に影響がでている。特に輸出が厳しさを増している。

岩手県沿岸漁業の復旧には、特に、サケ定置網を核とした生産、加工の復旧が、相当重要な意味を持ち、水産加工業を含めた総合的な対策が必要な段階にある。

### (3) 地域の零細水産加工場の本格復旧

岩手県では、漁業生産の特徴もあってウニやカキのむき身加工、ワカメの塩蔵加工等の零細な加工場が多数存在していた。これらは、生産から販売に至る過程で必要な加工であるが、グループ補助金の対象とならず、仮設の施設で応急的に対応している状況である。岩手県の漁村地域においては、こうした地場の零細水産加工場の本格復旧を急ぐ必要がある。

併せて、地域資源の活用や付加価値を向上させる取組みとして、漁業・商工業連携や三陸の観光資源等を生かし、地域連携による復興を進める必要がある。

## 4 むすび

岩手県の水産加工業は、漁業とともに生きる重要な産業である。このため、漁業と流通加工一体となった復旧が不可欠である。

水産加工業は、地域の雇用や地域資源の活用といった観点からも大きな役割を果たしてきた。しかし復旧に向けて、困難な課題を抱えている状況が続いており、抜本的、総合的対策を急ぐ必要がある。

(このす ただし)